

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100535		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名(ユニット名)	楠見グループホームすずらん A		
所在地	和歌山県和歌山市楠見中26-1		
自己評価作成日	平成26年8月25日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成26年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「真心介護」という理念に基づき、スタッフが将来過ごしたいと思え、気兼ねなく家族・友人・知人が遊びに来てくれるグループホームを目指しています。日々の生活の中で一人一人のニーズに応じたサービスの提供ができるよう、月1回内部研修を行い、外部研修にも積極的に参加し、職員のスキルアップを目指した取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小規模多機能型居宅介護や、サービス付高齢者住宅、デイサービスなど様々な事業所と同施設内にあり、お互いに協力しながら利用者の支援を行っている。職員は理念をよく理解し共有しており、事業所内だけでなく地域の中でも「真心介護」を意識し、困っている人がいると声を掛けるなど職員は常に優しさを持って接している。また地域の防災訓練に利用者と一緒に参加したり、施設が地域の防災の拠点になっているため防火水槽や備蓄倉庫などを備えるなど地域の人々と法人が協力しあえる関係にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「真心介護」の額を常に目にすることができる壁面に掲げる事で意識し共有できる職場環境を管理者と職員でつくり、実践に繋げている。	新人職員の入社時など、ことあるごとに理念について話し合いの場をもち、利用者だけではなく普段から高齢者に対して優しい言葉掛けや思いやりのある態度をとれるように心掛けている。また職員間でも優しさを持ってお互いにフォローしあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には事業所として加入し、会合にも参加している。地域の老人会とは運営推進会議・地域の方等の慰問・盆踊りへの参加をとおし交流を深めている。又、日頃より畑づくりのアドバイスを頂いたりしている。	地域の方たちや保育園児の慰問、利用者や畑づくりをしている際に通りがかりにアドバイスや声をかけてくれるなど、日常的に交流がある。また施設の夏祭りには家族や地域の方たちが参加してくれたり、春秋には下校時の見守り隊を利用者で行うなど地域との交流は深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者・職員は実践により培った認知症の方の理解や支援の方法を活かし、地域の方々との交流の中で、相談・助言等を積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂戴した意見・情報を活かし、サービスの質の向上や、地域の一員として今まで以上に貢献できるよう取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、会議後座談会を行い、話しやすい雰囲気を作り家族からの意見や質問を受けている。欠席の家族には会議録を送付し、次回の開催日を知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新手続きや生活支援課の訪問等の事務的な関わりが主となっているが、何かあれば訪問、電話等で相談するようにしている。	生活支援課の担当者とは、利用者についての報告や相談をするなど話し合う機会を持っている。介護保険課には更新の手続きやサービスについて不明な点を相談するなど連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等で「身体拘束」について学ぶ事で全ての職員が周知しケアに取り組んでいる。	身体拘束について社内研修を行っておりスピーチロックやフェイスロックが身体拘束にあたると理解している。エレベーターや階段は利用者が自由に利用できる環境にあり、職員がお互いに声を掛け合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で「高齢者の虐待」について学び知識を深める事により虐待の見過ごしやがないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる利用者様はおられないが、外部の研修に参加した職員が内部研修を行い全ての職員が学ぶ機会をもてるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書の内容を利用者様・家族様にわかりやすく説明し不安や疑問等の軽減に努めている。また、改定時は案内及び電話・訪問時に説明を行い納得いただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者様の意見や要望に対する対応について運営推進会議で運営推進委員の皆様へ伝え、運営推進会議や訪問時に頂いた運営推進委員の皆様意見を昼礼や月1回の会議等で職員へ伝え業務の改善に努めている。	家族が訪問した時には職員から声をかけ、意見や要望等話しやすい雰囲気を作っている。家族から「リハビリをして欲しい」という要望があり、生活リハビリを増やし利用者の活動性をあげた具体例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回事業所会議・管理者会議を行い、事業所会議であがってきた職員の意見や要望を管理者会議で伝え、代表や会社の方針を月例会議で職員に伝えるようにしている。	毎月事業所会議を行い、次月行事、困っていること、利用者との関係性等話し合う機会がある。職員から夜間の転倒が増えている利用者に背中に敷くセンサーの購入の提案がありその後夜間の転倒が減るなど上手く意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入しており、個々の職員の能力や資格保持状況等を踏まえた給与体制となっている。また、管理者会議等では職場環境の整備等についても話し合う場をもうけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が講師となり内部研修(勉強会)を月1回実施したり、新人職員に教育担当をつけ、個々の職員のスキルアップを図っている。又、外部研修にも多くの職員が参加できるよう調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所主催の勉強会に参加したり、代表者同士の勉強会に参加させてもらうことによりネットワークづくりに取り組んでいる。又、他事業所へ見学に行くことで自施設の改善に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入する上で、利用者様・家族様の要望、困っていること、不安な事などを伺い、事業所として出来ること出来ないこと、協力してもらいたいこと等を明確にし、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入する上で、要望・困っていること・不安なことを伺い、事業所として出来ること出来ないこと、協力してもらいたいこと等を明確にし、安心して生活していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様がどのようなことで困っているかの聞き取りを行い、どのような支援が必要かを見極め対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事やレクリエーション、コミュニケーションをとoshi、利用者様と職員が共に喜べる様心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が家族様の訪問時に利用者様の状態をお伝えし、利用者様の状態に合わせた介護方法を家族様と共に考え支援に繋げられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が古くからの付き合いの中で築いてきた人間関係を大切に、訪問してくれた際には再訪問をお願いしている。	親戚や知人の訪問が多く、また訪問していただけるように職員から声を掛けている。馴染みの美容室には家族の協力を得て出かける等、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日頃から観察し、座席等を決めている。又、他者との交流が難しい方には職員が会話の支援を行い交流が図れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了も困りごとがあればいつでも連絡いただけるよう退去時に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の今までの暮らしや意向をアセスメントしており、聞き取りが困難な場合には家族様に伺い利用者様本位のケアができるように努めている。	センター方式を利用し利用者様の今までの暮らしや意向を本人や家族からアセスメントしている。入居後その都度の気付き等を追記し、利用者様の希望や要望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入までや訪問時等に今までの暮らし方や生活環境等伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子やバイタル測定、食事摂取量、水分摂取量、服薬状況、排泄記録等の記録を行い現状の把握に努めている。又勤務交替時の申し送りや昼礼等でも現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には、担当職員からの聞き取り及び利用者様・家族様の意向を踏まえ計画書を作成している。	職員は毎月のミーティングで意見交換を行っている。また利用者様の課題に気付く度に担当者間で話し合いを持ち、本人や家族の意向を踏まえ、現状に即した介護計画を作成している。また必要な時は主治医、看護師等からの意見やアドバイスをもらうことができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子の記録を行い、職員全員が共有し現場で活かせるようにしている。又、利用者様に状態の変化がみられた場合は都度見直しが必要か検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族様の状況を知る為、日々コミュニケーションをとり、ニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練や盆踊りなどの行事に参加させていただいたり、近所の方には畑づくりの知恵をいただいたりしており、地域資源を活用しながら楽しく張りのある生活がおくれるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に定期的な受診・緊急時の受診先を伺うのはもちろん、かかりつけ医と自施設の看護師と連携をとり適切な医療を受けられるよう支援している。	殆どの利用者が事業所の協力医療機関をかかりつけ医としており、専門医などの受診は家族の協力を得て適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と連携し、利用者様の日常の変化を都度報告し適切な処置や病院受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院に至るまでの経過や施設での状態等の提供を行います。退院時にはカンファレンスに施設看護師同行で参加させていただき退院後安心して過ごしていただけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の対応についての説明を行い利用者様・家族様の意向を伺うようにしている。、詳しい対応については利用者様の体調の変化に応じてかかりつけ医と連携をとり対応させていただく旨をお伝えしている。	契約時に重度化や終末期の対応について説明を行っている。看取り等の経験はないが主治医、看護師等と連携し看取り等のケアが出来る体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導及び内部研修にて急変時や事故発生時に対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を定期的に行い対応できるようにしている。又、地域の防災訓練に参加し地域との協力体制を築いている。	地域の防災訓練に利用者に参加したり、事業所独自で避難訓練や非難場所の確認を行い、消火器やAEDの使い方などの訓練も行っている。事業所は災害時、地域の避難場所として開放するようになっており、緊急時の連絡体制も整っている。	災害に備え夜間を想定した避難訓練を利用者と一緒に行い、いざと言うときに備えていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切に、個々の利用者様に合わせた対応を行うよう努めている。	呼称は基本「名字」で呼んでいるが本人が好む呼び方もしている。排泄の失敗やトイレ誘導時はさりげない声掛けをしたり、利用者の部屋のドアを閉めるなど誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉による希望や要望だけでなく、言葉に表せない表情等にも気付けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の支援の中で得られた利用者様の情報や意見等をノートに記録し出来るだけ意向に沿えるよう職員間で話し合い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、好みの服など、個々の利用者様の希望に沿えるよう支援している。にしていだけるよう声掛け等支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の聞き取りを行いメニューに取り入れるようにしている。又、個々の利用者様の状態に合わせて食事準備、配膳、下膳を職員とともにやっている。	基本食事は栄養士が配置されている施設の厨房で作られているが、おやつ作りや利用者の誕生日、利用者からのメニューの提案があったときは職員と利用者が一緒に調理を行っている。また利用者と職員が育てた野菜が食卓に並ぶと会話も弾み食事もすすんでいる。またテーブルを拭いたり、下膳などそれぞれが出来る事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者様の状態を日々観察・記録し、その方に合わせた食事形態での提供を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者様に合わせ、毎食後に口腔ケアの介助を行っている。義歯を使用している方は週1回義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間の把握ができるよう記録を行っており、1日1日の利用者様の状態により完璧な把握は難しいが、トイレでの排泄が継続できるよう声掛け・誘導等を行っている。	必要な利用者には職員が定期的にトイレに誘導し、排泄のパターンの把握をしている。夜間も本人の状態に応じてトイレに誘導するなど、トイレでの排泄が継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬だけに頼らず、食事の献立や水分摂取量等にも気を付けている。又、運動等のレクリエーションを取り入れ便秘解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は設定しているが、入浴時間を午前と午後に分けており、利用者様にはどちらの時間帯で入るか決めていただいている。また入浴日以外の入浴も希望があれば都度対応している。	隔日に入浴できるように支援しているが、入浴を拒む利用者には時間、職員、日を変えるなど無理強いしないように対応している。また菖蒲や柚子を入れ季節感を取り入れる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけでなく日中も自由に自室にて休んでいただいております。自室で快適に安眠・休息できるよう環境や空調にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局や看護師の指導にて薬の目的や副作用、用法、用量についての把握に努め、服薬に関しては利用者様の身体状況に合わせて介助を行っている。又、服薬後の状態の変化に気を付け支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を知り、個々の利用者様に合った役割や楽しみを見つけられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物などは個々の利用者様の状況に応じて出来る範囲で対応している。又、行きたい場所など日常の会話の中で聞きだし希望に沿えるよう努めており、家族様や知人の方にも協力して頂いている。	畑に出かけて手入れや日光浴をしたり、散歩や近隣のスーパーへの買物、同法人のデイサービスなどに出かけている。またお弁当を持参しお花見に出掛けたり、ドライブに行くなど積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態に応じて家族様に了解を得た場合は利用者様にお財布を持っていただいている。又、買い物に行った際には支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人への電話はもちろん、家族へ電話したい場合等も家族様の了解を得たうえで電話できるよう支援している。手紙やはがきに関しても意思を尊重し家族様と協力して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔であるよう心がけ、快適に過ごしていただけるよう空調にも気を付けている。又、各月に合わせた壁面を飾り季節を感じていただけるようにしている。	共有の空間には除菌が出来る加湿器が設置しており感染予防に配慮している。ユニットが同じ階にある為、自由に行き来できる環境にあり利用者が好むところでくつろぐことが出来る。また壁には毎月利用者の手作りの壁画が飾られ季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様を職員が把握し座席を考えている。また、内階段の踊り場にソファを置いたり、共用空間の畳スペースで過ごしていただくなど思い思いの過ごし方をいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には利用者様の馴染みの物を置いていただける様入居時にお願いしている。又、馴染みの物がない場合は、入居後にご自身が作成したものや写真、お誕生日の色紙などを飾るようにしている。	自室には遺影や仏壇、家族の写真、絵など馴染みのものを持ち込み居心地よく過ごせるように工夫している。また畳敷きの部分があり落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるよう各所に手摺を設置し、歩行の妨げとなるようなものを通路に置かないようにしている。		